

# 任国あんなこと!こんなこと!

## 夜間外出禁止令下の専門家の生活 (ケニア国、ナイロビ)

大久保 卓次 (JECK 会員)

私のケニア派遣は、1980年12月から2年間、もう四半世紀も前のこととなります。丁度1990年までに世界中の全ての人に清潔な飲料水を供給しようという国連「水の10年計画」(Water Decade)が始まった年でありました。配属先はケニア水資源省直営設計課 (Departmental Design Section)、ケニア人水道技術者の不足から省内の様々な部門に外国人専門家が派遣されており、設計課についても設計課長にベルギー人、課員の主任技術者にスイス、ノルウェー、インド、日本とまさに外国人部隊といった様相でした。



業務内容は、World Bank やスウェーデンの協力によって作成された50件程度の地方水道計画の Feasibility Study の報告書を課内の技術者で分担し、それぞれ現地調査 (Safari) に出かけ、水源の取水地点、浄水場の建設地、導水管の配管ルート等を決定し、測量成果を持って実施設計を行い、入札書類 (Tender Document) を作成するという役割提供型の技術協力でした。

昨年末のケニア大統領選後、選挙の不正を訴える暴動が発生し、未だに収まるどころか各地で暴動がさらに激化し、700人ともいわれる多くの死者、25万人の難民が出ているとのニュースが流れています。40程の部族からなる多民族国家、貧富の差等が根本的な原因なのでしょうが、赴任中の1982年に起きたクーデター未遂事件が思い出されました。はるか昔の出来事で記憶も薄れてきていますが、夜間外出禁止令 (curfew) の中で、IT機器の発達した現在とは違い、まともに繋がらない電話しか情報を得る手段の無かった時代の日本人専門家の困惑ぶりを紹介したいと思います。

事件発生は1982年8月1日早朝のことでした。ケニア空軍の一部反乱分子が奇襲攻撃で大統領官邸、ケニア放送局、ジョモケニヤ国際空港を占拠しました。3日後には政府側の鎮圧部隊が反乱分子を制圧したため、歴史的にはクーデター未遂として扱われましたが、市街戦があり、商店街の略奪もあり、夜間外出禁止令は徐々に時間短縮されたものの9月3日まで続けられました。

私は、丁度前日に他の専門家と2家族で休暇を取りインド洋に面した保養地モンバサへ3泊4日でナイロビを離れた所でした。事件発生当日は何も気づかずに海やプールで休日を満喫し、翌日にナイロビの日本人から電話でクーデターの発生とナイロビ市に午後6時から翌朝7時までの夜間外出禁止令 (curfew) が敷かれたことを知らされ、また、M新聞の駐在員の息子さんがヨーロッパでのサマーキャンプを終え、今日ルフトハンザ機で帰ってくるようになっていたが、ナイロビに着陸できず、モンバサの空港へ降りたようなので、探して保護してほしいとの連絡を受けました。海辺のリゾートホテルを順繰りに駆け回りました。結局ルフトハンザ機はケニアへ着陸せず、ドイツへ戻ったことがわかり一件落着きましたが、このおかげでケニアの海岸の南半分のホテルについてはガイドできるくらいにくなりました。(続く)

## 私のメキシコ体験記・異文化との出会い 第4回～メキシコの音楽～

佐藤 満寿哉 (JECK 会員)

ラテン系で陽気なメキシカンは、音楽と踊りが大好きです。そして、メキシコの代表的な音楽は何と言っても「マリアッチ」です。100年ほど前、メキシコ在住のあるフランス人が友人の結婚式に、流しの音楽家を集めて大いに騒いだ時、彼が「マリアージュ!マリアージュ (婚礼だ!)」と叫んだのが、少しなまって伝えられ、それが流しの楽団をさして「マリアッチ」となったのだといわれているようです。栄養満点で、やや太めの体に口髭をはやした男達が、ソブレロという大きな帽子とカウボーイ姿でマリアッチを演奏する様子は有名です。使用する楽器は、おおむね、バイオリン・ビオラ・ギター・ギタロン (大型ギター)・トランペットという面白い組み合わせです。歌われる歌は、愛の歌、別離の曲、村の踊りの曲など、メキシコのあらゆる人々の喜怒哀楽の感情が奏でられます。このように、マリアッチは陽気でありながらも、時にはほどなく物悲しさが漂うメキシコの国民音楽です。

そして、これらマリアッチ楽団が大勢たむろしているのが、シティの中心に近いガリバルディ広場で、通称マリアッチ広場と言われている所です。1曲数百円程度で注文客の周りを取り囲みリクエスト曲を演奏してくれるのです。なんともメキシコらしい開けっ広げでいい風景だと思います。楽団を連れて恋人の家の窓の下で、心のうちを伝える事は、今でも実際に地方などではあるそうです。なんとロマンチックな……。南部の方では、さらに大型のマリンバが加わったり、ベラクルスの方では陽気で早いリズムとタップダンスを伴うなど、地方により様々な特色があるようです。いずれにしても昔からあった土地の音楽とスペインの文化がまざって出来た音楽のようです。

この国で最もよく歌われる曲はシェリート・リンドで、何かの会合でアルコールが入ると必ず歌われるのがこの曲です。そしてベサメ・ムーチョヤラ・マラゲーニヤ、ラ・バンバなどもとても人気のある曲です。メキシコに行かれる方は、是非一曲覚えていってほしいものです。何事にもあまりこだわらない「アスタマニャーナ (なるようになる)」を信条とするメキシコ人に相応しい楽しく踊り出したくなるような音楽がたくさんあるのが「メキシカン・ミュージック」と言えるでしょう。



## 編集後記

JECKが発足して早くも6年目を迎えました。

世の中の流れは益々速さを増すようで、私たちが日々の暮らしの忙しさばかりに目をとめがちですが、時には少し立ち止まって、足元を流れる小川の音や魚たち、何時の間にか咲いている梅や桜や菜の花にも心を傾けたいと思います。

そしてまた、隣を歩いている卒業や入学の季節を迎える子供達を見て一番大事な次世代を担う世界の子供達のために何ができるかを考えたいものだと、少しばかり殊勝な気持ちになる春がもうすぐ来るようです。さて、今年も元気に参りましょう!

(満)

## JECK ホームページのリニューアル

JECK 発足5周年を機にホームページを一新しましたのでご覧ください。URLは従来と変わらず <http://www.jeck.jp> サーバーの契約容量が500MBとなり、より多くの情報が掲載可能となりました。JECK 会員の相互情報交換のみならず、JECK の活動を広く世間に伝える広報媒体として、活用いたしたく考えております。今回は、とりあえず基本部分を作成・整理いたしました。今後順次内容の充実にも努めますので、会員の皆様からもご意見、掲載要望等をお寄せいただきますようお願いいたします。

(ホームページ担当者: 吉田博至、管理責任者: 佐藤満寿哉)

## JICA 帰国専門家連絡会 かながわ会報 第10号

発行 2008年4月

発行者 JICA 帰国専門家連絡会 かながわ (JECK)

事務局 植岡 龍太郎 (e-mail: ueokaf@ybb.ne.jp)

横浜市戸塚区上倉田町2007-27-116

菊池技術事務所内

編集委員会 佐藤満寿哉 (編集責任)

菊池正夫、中之蘭賢治、物部宏之、谷保茂樹、小泉由紀子

印刷 横浜リテラ (URL: <http://www.yokohamalitera.com/>)

(e-mail: [info@yokohamalitera.co.jp](mailto:info@yokohamalitera.co.jp))

横浜市戸塚区上矢部町2039-2